

くまもとアートポリス・わたしたちのまちづくり

苓北町民ホール

設計 阿部仁史+小野田泰明+阿部仁史アトリエ

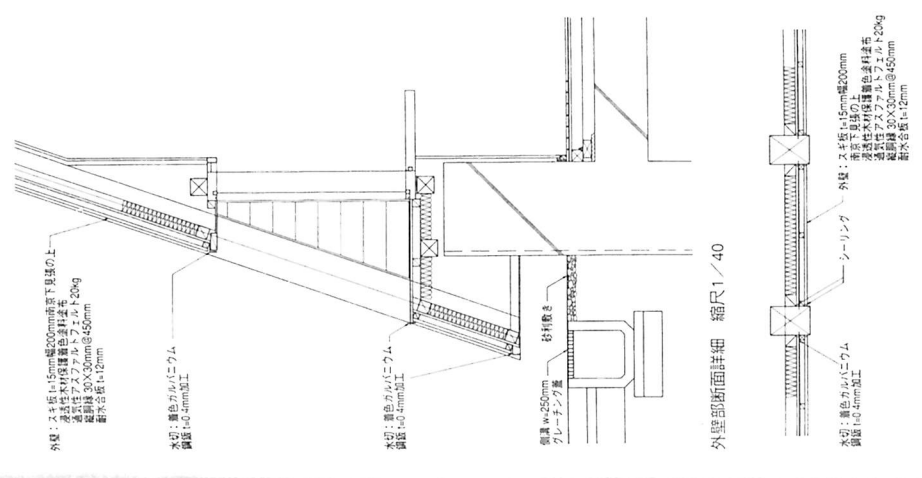
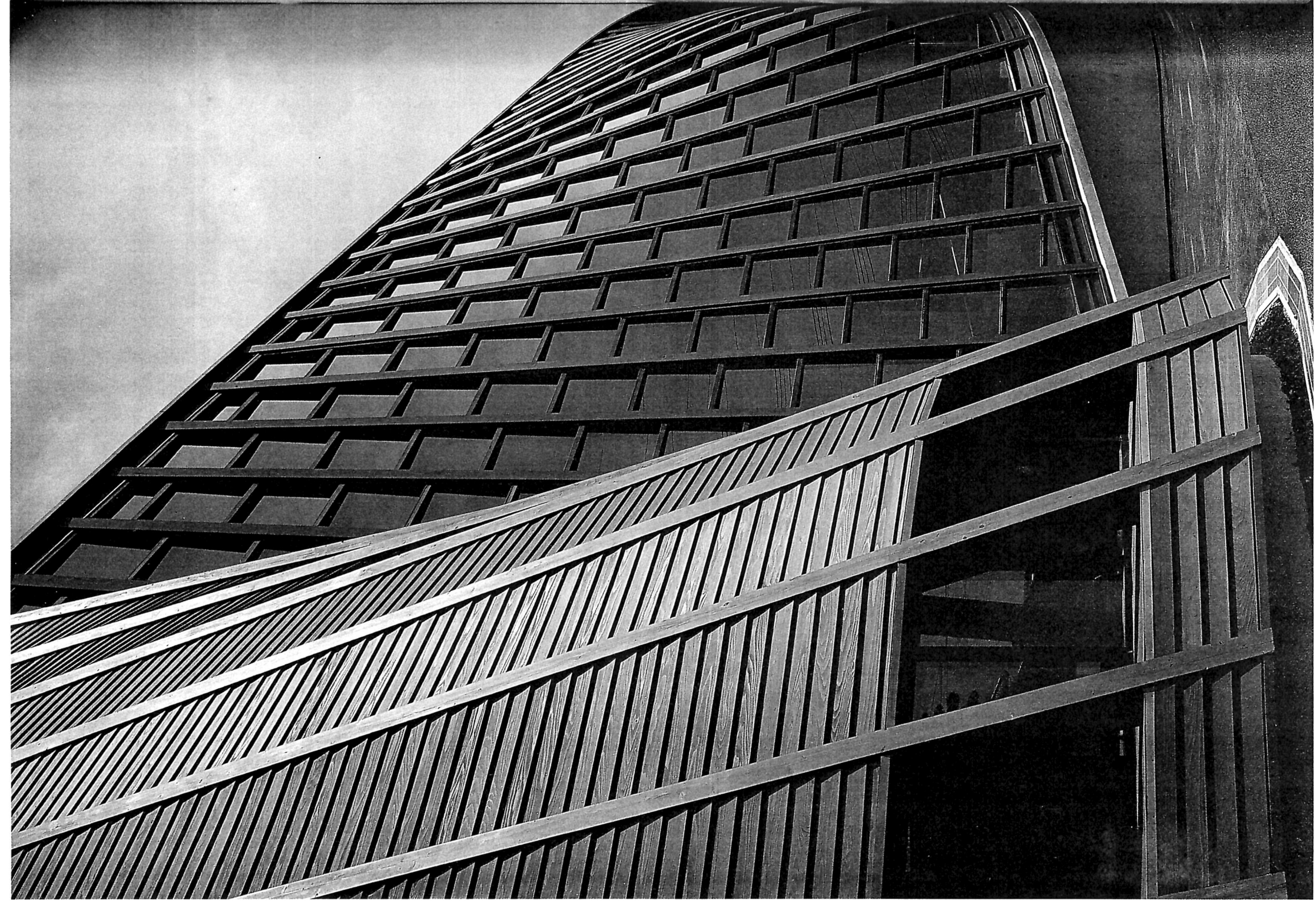
施工 中村建設+カネマツ建設工事共同企業体

所在地 熊本県苓北町

REIHO KU COMMUNITY HALL

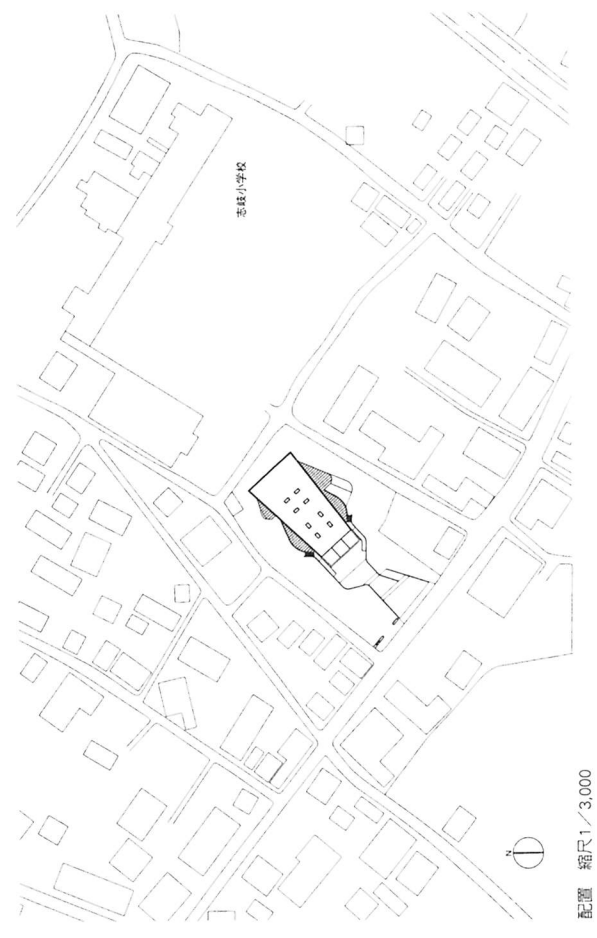
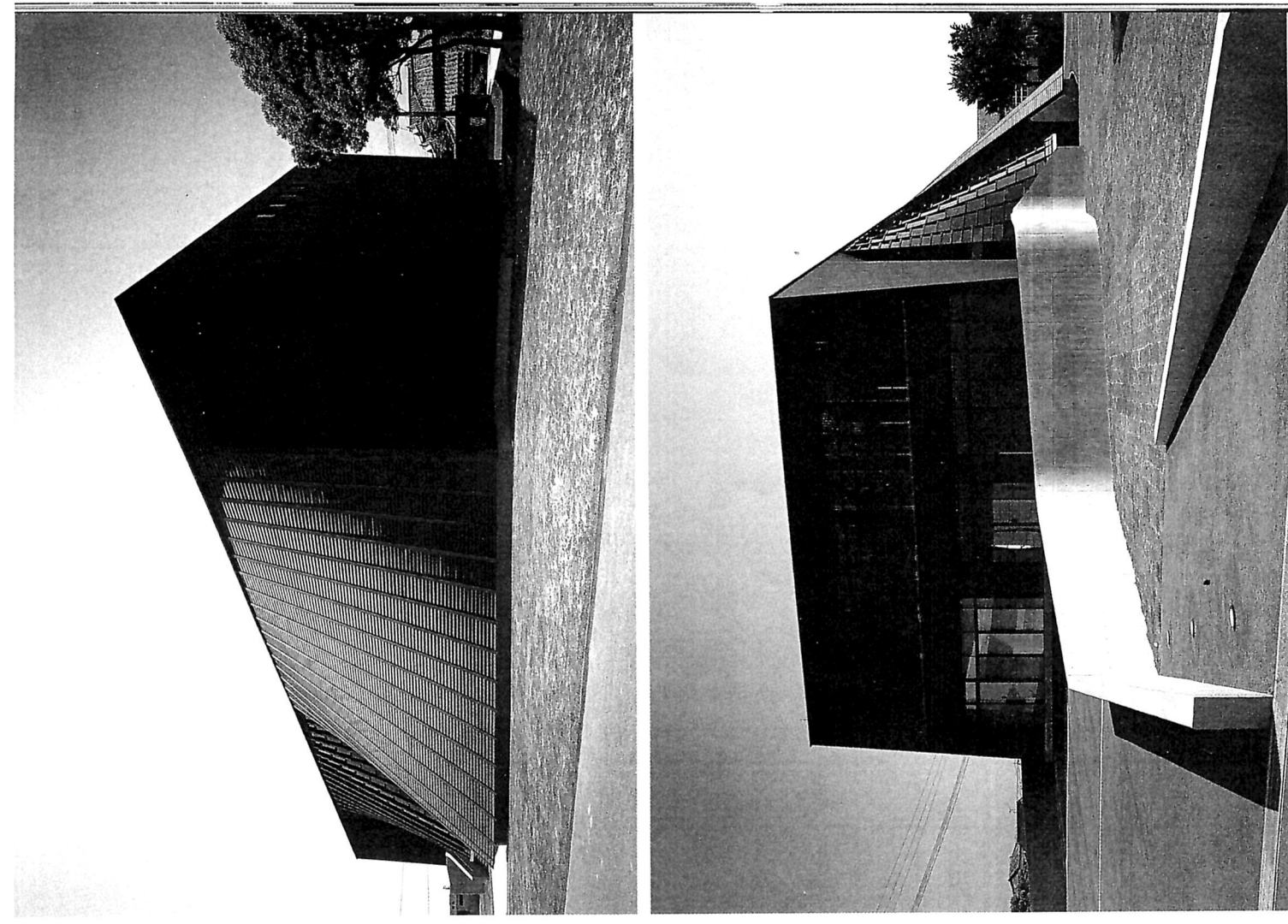
architects: ATELIER HITOSHI ABE + YASUAKI ONODA





外壁部断面詳細 縮尺1/40
 スチールによる外壁は割れ反りによる漏水が少なくないため、
 万一雨水が侵入しても外部に流れるよう考慮し、シール、
 空気層、防水層、板金、シール、と段階的な防水処置を行
 っている。

144-145頁：南東側外観、建物ヴォリュームの長さは約44m、
 軒高8,950mm、/146頁：北側壁面を見る、手前側面
 の外壁はスチール15mm南京下見張り、/147頁上：東側全
 部、外壁の曲面は、上端部を大梁に架けた各柱下端部の、
 大梁からの水平距離の違いによりつくられている、柱材のト
 ッチは900mm、/147頁下：南西側のアプローチから見る。



宍北町は、熊本県の南西部に点在する天草諸島のうち、もっとも大きな島である天草下島の北西端に位置する人口およそ9,000人の町である。敷地は、その宍北町にある4つの地区のひとつ、志岐地区の中心部にある国道沿いに移転した町役場・公民館の跡地で、町の構造が変わりゆく過程でその真ん中に生まれた空白部である。このコミュニティの穴を、どうやれば埋めていけるのかを与えられた課題であった。調査とワークショップの積み重ねから浮かび上がったコミュニティ再生のシナリオの核として、町民のコミュニティへの自発的動きかけを促し得る施設、つまりコミュニティを活性化するためさまざまな議論や試行を行ってきたこのワークショップの活動自身を受け入れ、定住させる器、をデザインすることになった。

施設は、ひとつの箱に北半分を207席のホールを含む外への発信の場である文化ホール機能、南半分に活動や情報の循環を高める集会所機能を、分節することなく重ね合わせて詰め込み、ポランテニアビューローを真ん中に挿入した構成である。

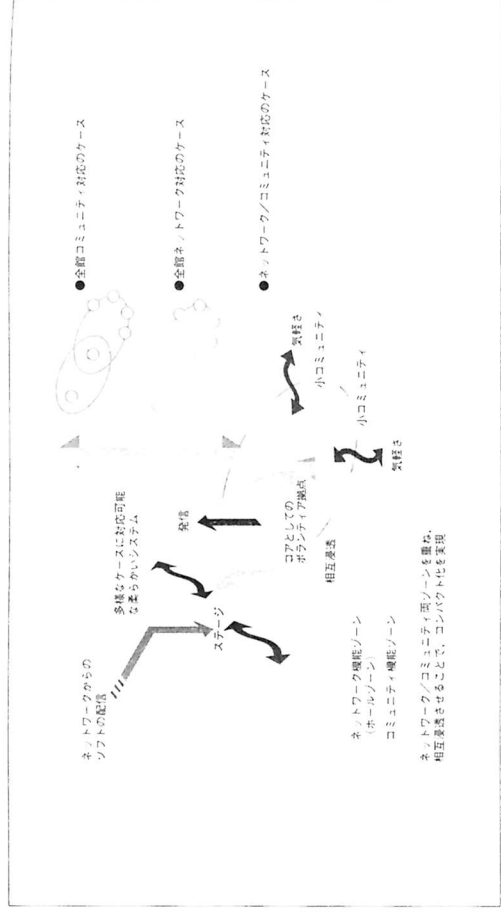
財源の関係上、木造であることが前提であり、コストその他の条件を軽減するためにコンバクトな構成が求められた。

また同時に、南北の機能がオーバーラップして相補的な配置となることにより施設の稼働率を上げ、状況によって外向きと内向きの機能が交代して場の意味が入れ替わること、プログラムのフレームが緩やかになり、この箱をそれぞれが自らの解釈で隅々まで使うことが促されることを期待している。

かたちは、直方体を900mmピッチの断面に分解し、その場の条件を読み取りながら連続的に変化させることで生成されている。機能に形を

与えて要素としそれを組み合わせいくのではなく、それぞれの機能を空間に配して生まれる場の特性を特定の規則性によって記述することによってかたちを生み出す手法は、異なる事象が関連づけられる意外な造形を生み出して地形のような性状の場を生み出す、特徴的な壁面のうねりは、場所によって入口や庇のような役割やホール内の音を一定に拡散したりといった機能を果たしつつ、訪れるものに多様な読み取りを可能としている。

(阿部仁史)



コンセプトダイアグラム / 149頁、ホール外周部の階段通路を最適化する



設計 建築 阿部仁史+小野田泰明+阿部仁史アトリエ
 構造 TIS&PARTNERS
 設備 総合設備計画東北事務所
 施工 中村建設+カネマツ建設工事共同企業体
 敷地面積 3,830.14㎡
 建築面積 934.70㎡
 延床面積 993.36㎡
 階数 地上2階
 構造 木造 一部鉄筋コンクリート造
 工期 2001年6月～2002年3月

上左「家畜アクリル」/上右「形状ダイアグラム、900mmピッチの断面を長手方向に透視したもの。外壁・カーテンウォール(青の面)、耐震一層壁(赤の面)、床・柱・階段・黒の面」は特定の規則性によって記述される。